

2023 年 7 月 11 日(火)

学 校 法 人 三 幸 学 園
東京ビューティー&ブライダル専門学校
校 長 清 水 智 之 殿

学校関係者評価委員会
委員長 横山 耕太

学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小又 哲久（株式会社ガモウ 立川営業所所長）
- ② 新井 敏之（アライ写真館 代表）
- ③ 矢崎 唯（第 3 期卒業生）
- ④ 横山 耕太（飛鳥未来きずな高等学校立川キャンパス キャンパス長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023 年 6 月 19 日（月）

（会場 東京ビューティー&ブライダル専門学校 502 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 東京ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 教務課長 前川竜也

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 横山 耕太

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、美容・ブライダル分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョン、ウェディング分野の「最高の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、美容野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、ウェディング分野としては「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

2022年度は社会で必要とされる人材育成に伴い、マナー・ルールの違いを理解させ、誰からも愛される人材を育成するために教員の意識統一を行った。

そこで授業の質向上や退学率減少に向けた取り組みをおこなったが教務上の課題は残る結果となった。

また前年度に引き続きコロナ禍においての対応はソーシャルディスタンスを保ち、オンデマンド授業では生徒の学びの質を担保し、工夫をしながら授業体制の構築を行った。

就職については企業様との連携を早い段階から取り組み成果を上げることができたが、今後は卒業生が後輩に本校を勧めたくなるような教務、就職での取り組みを行い次年度に向けてさらに向上した学校運営が必要となる。

② 学校関係者評価委員会コメント

(矢崎委員)

在学中はコロナ禍であり、対面での授業が制限されていたが、オンデマンド授業で補える部分はあった。

また、接客については、サロンを想定し実践を交え教えていただけたことで、今でも役立っている。しかし、相モデルでの授業展開がなく、技術面での実践的な経験を積みなかったこともあり、入社後に思い描いていたイメージとのギャップで早期退職をしている同級生も多い。コロナウイルスの規制も解除されているため、サロンワークなど、現場を想定した授業展開を行うことで、より質の高い授業が行えると思う。

（横山委員）

高校でもルールとマナーの違いは教えているが、学校生活に結びつけているかというと、そうではないように感じている。以前はオンライン授業がメインではあったが、今年度はオンライン授業もなくなり、自分のペースで勉強に励むことができるようになった。対面での指導もできるため、ルールとマナーの違いについて、高校でも力を入れて伝えていこうと考えている。

（小又委員）

お客様である美容室の方と話しをしても、東京ビューティー＆ブライダル専門学校を知らない方はいないため、この5年で認知を高めてきたと思う。生徒も元気よく、伸び伸びと学ばれている学生が多いのではと感じている。

（新井委員）

おしゃれな学校・ドラマ撮影で使用された学校と近所でもよい印象であると思う。

（矢崎委員）

私が働くサロンにも、美容学校の進学先を悩んでいる高校生が来店してくれるため、東京ビューティー＆ブライダル専門学校を勧めている。オープンキャンパスに参加したという高校生もあり、在学中の話をしている。

（美容科）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

理念・目的・育成人材像は定められており研修やホームルーム等で周知をしているが保護者様や関連企業様への周知がまだ不足している。

変化が速い社会現場ではどのような人材を求めているかの把握が必要、そのためには産学連携を深めより深い情報や知識を持つ事が重要である。

② 今後の改善方策

理解を深める為には関係性の構築を進めていくことが重要となるため、保護者様へは保護者会の実施や行事への参加を促し学校への理解が深められるような機会をつくる必要がある。

また関連企業様とは産学連携をより深め各業界に合わせた教育内容の構築を行えるよう進めていく。

③ 特記事項

2023 年度は 3 月に保護者会を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（小又委員）

株式会社ガモウは100周年に向けてのカウントダウンが始まったこともあり、企業理念を若手社員に周知しようという最中。企業理念に基づいて、各社員が「どう考え・どう行動しているか」を一冊にまとめるプロジェクトを始めた。今後は3回に分け社内報を発行し、一人ひとりが社員の一員として「なすべきこと」を考えることで、会社にとって「不変なもの」を見つめ直す良いきっかけになった。

まずは社内に向けて発信し、社員をきっかけにお客様との会話の中で株式会社ガモウがどのような会社なのかを伝えられるようにしていく。

（横山委員）

保護者会を年2回実施し学校の教育方針の理解を深めてもらえるように努めている。また中学校等の訪問でも学園の教育理念などを伝えているが、周知しきれているとはいえ課題は残る。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2

①課題

労務上では教職員の残業時間の減少が求められる。

システム化等による業務の効率化については電子出席簿を活用した出欠管理や成績管理の理解、精度の向上が求められる。

②今後の改善方策

労務上では人員の確保とその育成が求められる。

システム化等については精度向上の為に全体会議等で導入やレクチャーを含めた研修を実施する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

（横山委員）

レポートが紙からデジタルになったこともあり、高校2年生以下の学年は入学時に ICT 端末の購入をお願いしている。端末にはレポート課題のほかにも、自主学習用の解答動画を入れ運用している。

リスク管理を考え、WEB に移行していないところはあるが、教務手帳で出席をとるなど現状はまだアナログなことが多い。来年度は学生全員がICT 端末を持つため、教員側が使いこなせるようにしていく必要があると感じている。

（小又委員）

社内は全て電子に移行していく動き。20年前はタイムカード・稟議書・発注書とすべて紙であったが、今ではすべて WEB へ移行している。お客様によって併用しながら対応している。

社内の情報システム課を強化し、経理もWEB請求に切り替えペーパーレスの時代に合わせにいつている。

（新井委員）

所属する商店街や組合では、いまだにFAXでの連絡・申請がほとんど。少しずつWEBへの移行はしているが、現状は両方を利用したハイブリット型で行っている。

（矢崎委員）

お客様への雑誌は全てタブレットになっているが、お客様の年代によって紙やWEBを使い分けている。店内のWi-Fiが安定せず、タブレットが動かないというトラブルもあるため、すべてタブレットに変更できていない現状。ネット環境を整えることは今後の時代の流れに合わせるには必須であると感じている。（美容科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

① 課題

教員の教務力向上において授業の進め方や教務上の指導方法など質の向上を行う必要がある。
また時代のニーズを取り入れた取り組みなど工夫が求められる。

② 今後の改善方策

教員の教務力向上においては各学科やコースでも授業の進め方や教務上の指導方法等の研修を行い、その内容についても各チーム間で共有する機会を設ける。また VR やデジタル教材の導入に伴い、理解や進め方なども改善を図りながらより具体的に構築していくことが必要となる。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

（矢崎委員）

技術向上のために、カット動画や研修はあるが、見えない角度がありながら教えてもらっている。実際の手元が VR を通して観られることは技術向上に役立つと感じた。職場にもあると嬉しい。（美容科）

（小又委員）

以前であれば社員が集まり研修を行っていたが、コロナ禍を境に、オンラインによる実施に切り替わり実施形態も効率化が進んでいる。支店内での営業方針などの認識統一はできるが、会社全体となると難しさがある。個性の強い社員も増えてきているため、Z世代についての理解もこちらも深めて行く必要があると思う。

（横山委員）

全体会議を年2回実施し、その中で部門方針を示しているが、伝え方ひとつで相手への伝わり方が変わることを痛感している。全体会議に参加できなかった講師については、教科会などでフォローしているが、一貫性の保つことについて課題を感じている。発達障害がオープンになってきたことで合理的配慮が求められる時代。必要に応じた配慮をしつつも、その中で教えていくことに教育の大変さ・難しさがある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

① 課題

退学率は微減での減少傾向がみられるがさらに改善が求められる。

また卒業生全体の状況を把握できていないことから情報が得られる仕組み作りや卒業生の活躍を在校生が知ることができる取り組みが必要となる。

② 今後の改善方策

退学の兆候例をまとめた一覧を全教職員で共有し該当する生徒がいた場合には速やかに担任や関わる教員へ情報共有を行う。多くの目線で気づきながら早期対応を行うことが必要となる。

さらに学校が楽しいと思えるクラスづくりを進めることが大切で授業以外にもホームルームや行事などを通して協働力などを経験できるクラス運営を行う。

また卒業生については企業様との連携を強化するために就職ガイダンスや校内でのコース分けガイダンスなど就職と教務面での連携を強化し卒業生による活躍の場を設ける。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

（矢崎委員）

退学する友人のほとんどは目標がなく入学してしまう生徒が多かった。コロナ過の影響もあり、できることが制限されていたため、授業内容もマンネリ化したことが多かった印象。変化のある授業があると退学率の軽減につながると感じる。（美容科）

（小又委員）

美容サロンのオーナーと話すリクルート面で入社してもらうために、社員の卒業した学校に相談しに行くという方が多い。オーナー側も学校とのつながりを継続していきたいと思う方が多いため、積極的に関わっていても良いと思う。

（横山委員）

卒業生が卒業後、どのような活躍をしているのかが在校生に周知できることは良いこと。さまざまな学校から卒業生ポスターをいただけているため、在校生にいい刺激になっていると思う。

（新井委員）

キッズドリームチャレンジの地域イベントに参加してくれた1期生が今では大学生になっている。イベントに参加してくれた小学生が実際どのような進路を歩んだのか、気になるところだが現段階では追えていない。

私が卒業した大学では、ホームカミングデイというイベントを在校生主催で開催し卒業生を年1回呼ぶ日があった。在校生と卒業生がつながる日であり、卒業生同士のつながりもあるため、面白いのではと思う。

（矢崎委員）

同窓会用の SNS はたまに見ている。更新は多すぎることもなく自分自身にはちょうどいいと感じている。周りの友人は見えてないという人もいるため、浸透していくことが課題なのではと感じる。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

多様化する生徒に対応する体制づくりも継続して求められるが相談しやすい環境をさらに整え
生徒の変化に対する早期の対応や保護者との連携がさらに必要となる。

② 今後の改善方策

生徒が相談しやすい環境づくりを行い、表情や態度・体調の変化に気づくなど生徒の情報把握のためにスプレッドシートやチームスを活用しながら教員間の連携を図る。また教務事務とも連携し欠時の状況把握や単位の管理を行う。卒業生への支援については同窓会 LINK などを活用し独立支援制度の案内や中途採用情報など、さらに充実を図る。

③ 特記事項

2023 年度は教員がクラス状況を把握できるようスプレッドシートを活用し

毎週、欠時一覧を担任と教務事務とで確認を行っている。

また精神的に不安定な生徒に対しての対応としてはスクールカウンセラーの設置を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（矢崎委員）

就職活動の時には、コロナ過の影響もあり、就職ガイダンスが実施できない状況だったため、サロン情報（早期育成・下積みあり等、サロンの特徴）をもっと共有してもらえると、就職活動に前向きになれた人は多かったと思う。お礼状の書き方は今も役立っており、教えていただきありがたかった。特に免許・資格の正式名称が載っていた就職冊子はとても役立った。

先生たちは声をかけてくれたり、話を聞いてくれたりする先生が多く話しやすいなと感じていた。就職活動時期も含め、自分にどのような就職先が合うかわからず、目指すべきことがわからないという友人が多かったので、その点のサポートを強化していくことが必要ではと感じた。（美容科）

（小又委員）

大学時代は進路指導部で相談し就職活動を進めていた。自分に興味があることを考え分野や業界を絞り探していった。興味があることをまず見つけることは大切かもしれない。

（横山委員）

退学報告書を活かしていけるよう共有方法を今年から変更している。ただ記入する報告書ではなく、なぜ退学に至ってしまったのか、担任自身のアプローチの失敗を含め、包み隠さず共有し、担任同士で気づき行動を変えるきっかけのひとつとして運用を始めた。学生の特性把握と学校としてできること、できないことを保護者にも理解してもらいながら教務を進めている。

（新井委員）

就職活動用の証明写真はほとんどがデータになり CDR ではなく、メールで送るよ形になってきた。多くの企業が履歴書もデータで送付し、証明写真は別でアップロードするようになっている様子。就職活動もデジタル化が進むと思うため、その対応も必要であるように感じる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

施設や設備面では充実しており問題はないが学外の現場実習においてはより教育効果が高められるよう、現場との連携が引き続き求められる。

また防災対策は整備されているが、より確実なものにするために備蓄品など充実させる必要がある。

② 今後の改善方策

施設、設備面については生徒の増加に合わせ今後整備を進める。

防災対策については防災訓練、避難訓練、AED の使い方等の講習を実施継続する。

③ 特記事項

wifi 環境は整えていたが wifi を活用したデジタル教材が増えてきたため強化工事を3月におこなった。

また2023年度から海外研修が再開される。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

東京都や多摩地区の中では認知度は低いので継続した学生募集活動が必要となる。

② 今後の改善方策

SNS やホームページなどを活用し継続した取り組みを行う。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

今後も継続した法令遵守が求められる。

② 今後の改善方策

法令遵守に対する啓蒙を図りコンプライアンスや個人情報など法令の正しい知識を教職員に伝えていく。

③ 特記事項

全体会議、教務会議にて定期的にハラスメント研修やコンプライアンス研修を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（横山委員）

教務規定の順守や学習指導要領に基づいた指導をお願いしている。

（小又委員）

年代別のコンプライアンス研修・ハラスメント研修を実施し、社員のリテラシーの向上に努めている。

（新井委員）

建て替えを機に、お客様の写真を見本として飾ることをやめた。地域に根付いた写真館であることもそうだが、写真を飾ることも不特定多数の人に見られると考えると個人情報として扱う必要があると感じている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

コロナ過で停滞していたが、これからは産学連携を強め地域や関連企業様との関係性を深めて地域貢献や社会貢献に関する活動をする機会の増加が必要。

② 今後の改善方策

地域の小学生に対して美容の職業体験ができる機会を設けることで地域貢献を行う予定。
生徒にとってボランティア活動を行うことで成長実感が経験できる機会を多くする。

③ 特記事項

小学生への職業体験を実施予定。
特待生を中心とした地域貢献やボランティア活動を実施予定。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（新井委員）

地域職業体験のキッズドリームチャレンジは今年で最後としている。保護者の要望が高いため今後は違った形での地域貢献を考えている。

（横山委員）

オープンキャンパススタッフが近隣のごみ拾い等を行っている。
地域貢献のために専門学校と連携して何か活動をしていきたいと考えている。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受け入れは行っているが少数に留まる。また国際交流までは行えていない。

② 今後の改善方策

留学生向け説明会の実施や姉妹校である日本語学校との提携の強化を検討する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今までは学内での活動に重きをおき学校運営を進めてきた。しかし学校近辺への学校認知も広がりつつあるため、今後は学生が学外の活動に参加しながら、活躍のフィールドを広げていきたいと考えている。そのためにも学外の情報にアンテナを張り、キャッチしていくことの重要性を感じている。地域の企業や高校からいただく情報はとても貴重である。高校生の進学への選択肢が増え、選ばれる学校になるためにもこれからもさまざまな意見をいただき学校運営に反映させていきたい。